

同盟会かわら版



「同盟会かわら版」第8号

「塩谷町民指定廃棄物最終処分場反対同盟会」（通称：同盟会）発行

5月14日開催
塩谷町シンポジウム
1,100名のご参加

去る5月14日（木）18時30分から「**高原山の自然と水と指定廃棄物最終処分場を考える塩谷町シンポジウム**」が、日々輝学園高等学校開桜館 体育館にて、**約1,100名**の方々に参加いただき、盛大に開催されました。

会場の体育館は立見席も出るほどの熱気に包まれ「指定廃棄物最終処分場」問題に関する塩谷町民・関係各位の関心の高さと白紙撤回への強い想いが表されたものとなりました。同日同時刻に開催された環境省の「県民説明会」への参加者は約180名に留まりました。

同じ「指定廃棄物最終処分場」問題を抱える、**宮城県加美町の猪股町長**からの力強い連帯メッセージの他、白紙撤回に向け支援を頂く方々からのご挨拶も頂きました。



**ありがとう
ございました！**



「塩谷町民指定廃棄物最終処分場反対同盟会」(通称：同盟会) 発行



基調講演から始まったシンポジウムの主な流れは以下の通りです。

- ・基調講演 演題 『福島原発事故後の原子力政策のゆがみ』
講師 吉岡 斉さん (九州大学大学院教授・原子力市民委員会座長
元政府福島原発事故調査・検証委員会委員)
- ・パネルディスカッション
テーマ 『塩谷町の未来を切り拓く～候補地選定から見えるもの～』
コーディネーター 磯野 弥生さん (東京経済大学教授)
パネリスト 谷本 丈夫さん (宇都宮大学名誉教授)
島野 安雄さん (文星芸術大学特任教授)
関口 鉄夫さん (元滋賀大学非常勤講師)
- ・塩谷町からのアピール
- ・『高原山の自然と水を守ろう』三唱
- ・『おらげの高原応援歌』斉唱

基調講演では、原子力市民委員会の概要説明に続き、異次元の被害をもたらす原子力事故の重大さ、福島原発事故後政府が強引に進めようとしている原発復活政策、責任が免除されている東電や関係機関の実態、最終処分場計画の理不尽さ等に続き「塩谷町の抵抗が、国家政策見直しの契機となるのではないか」とのご指摘も頂きました。

パネルディスカッションでは、「指定廃棄物最終処分場」をめぐる多くの問題点のうち、塩谷町にとって重要な「自然」の保護に焦点をあてて、塩谷町の自然の意義、自然保護の必要性、候補地選定プロセスの問題点等について、各専門の立場から貴重なご意見を頂きました。

塩谷町からのアピールでは、「塩谷町は環境省による詳細調査を受け入れない」こと、「すべての町民が一丸となって白紙撤回の日まで闘い抜くことの誓い」を新たにしました。

最後に『高原山の自然と水を守ろう』を元気に三唱し、町民有志の作詞した『おらげの高原応援歌』を全員で斉唱して散会しました。



「同盟会」の目指すもの

「指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地」選定の「**白紙撤回**」を断固目指しています!!
その為にも「指定廃棄物は各都道府県内で処理を行う」ことを定めた「**特措法の基本方針**」の**見直し**を要求し、放射能を拡散させないことを訴えていきます!!